



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙ついで

二月はなんとも忙しい。所属する学部学科や研究科専攻では、論文を提出し、研究発表をしないと卒業できない。私は、学生の論文作成や研究発表のお手伝いをする。これでも一応、アメリカ大学院仕込み。私なりに会得した「極意」を教える。

学生にとって、論文作成は苦しい作業だ。数十ページにわたり「論理の一貫性」が破綻することなく文章を構成するのは、実験するより難しい面もある。学生が持つてくる論文に、論理が矛盾する箇所を発見して戻す。げげんな顔の学生も、説明すれば「ああ」と納得。研究発表も同様だ。ポイントは「何を捨てるか」。日本では「内容だけが重要」と思われが

もり いく
森 郁恵

卒業の準備

ちだが、それを聴衆に伝える「発表のマナー」も同じくらい重要だ。と、いうようなことを教えていたら、朝を迎えた。気がつけば、今日は休日。どっぴりで構内がひっそりしている。

こんな朝はマイセンの「ぶどうの葉」のカップでコーヒーを飲み、アンジェラ・ヒューイットの弾くバッハのゴルトベルク変奏曲を聴くのがいい。彼女の素直で純朴なバツハは、徹夜明けの心身に静謐なリズムを刻み、清々しい。こういつゆったり流れる時間がないと、研究のアイデアもひらめきも枯渇して、窒息しそうになる。

ピアノリストの演奏に個性がにじみでるように、研究発表にも独創性や研究哲学が露呈する。「毅然として自分をさらけ出せる人材だれ」と卒業生の前途を祈る。
(名古屋大教授)

2011.2.25

2011.2.25 1面 No.7